

普及活動情勢報告（平成19年4月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

経営を、栽培を、見直して考え直して目標を立てよう！



「近年のナス経営の傾向は...」
「どこから経営改善に取り組むか？」
などの講習内容に、農家は真剣！

3月26～29日、平成18年度最後のJA土佐あき安芸市青色申告会の研修会が開催された。農業振興センター経営担当から『決算書から導く経営改善』と題した講演を行い、「栽培の結果が金額で明らかになった。次はその結果を栽培にどう反映させていくか？の番だ。」と強く訴えた。また、個別の経営分析・診断とカウンセリングの希望者を募ったところ、H19年度は11戸の農家で実施することになった。

平成18年度の安芸市青色申告会（3支部108戸）の活動は、延べ講習回数が47回、参加農家数は798戸となった。平成19年度はさらに1支部増やし、26戸の新規加入が予定されている。

家畜ふん堆肥の「利用事例パンフレット」を作成



耕畜農家の両方の現場写真を
ふんだんに取り入れたパンフレット

平成19年3月、「地元産の家畜ふん堆肥をもっと利用してもらおう！」と、耕種農家の利用事例と、畜産農家の堆肥製造現場を紹介したパンフレットを1万枚作成した。うち9千枚はJA土佐あき広報誌に同梱・配布し、残りは栽培講習会や堆肥のサンプル展示などでPR資料として活用していく。

平成18年度は、家畜農家と園芸農家の顔が見える関係づくりを目指しパンフレット配布やサンプル展示によるPRと実証試験、耕畜農家交流の場の設定など、活動を行ってきた。その結果、安芸地域内の家畜ふん堆肥利用量は、平成17年度末の1,877tから平成18年度末は2,574tにまで増加させることができた。平成19年度はさらなる需要拡大に取り組み、地域内の安定流通を目指す。

「安芸 嶺北 土着天敵リレー」 今作もタスキをつなげるよ！



ハウス内で土着天敵を探している、ナス生産者の岡林さん。
嶺北産のクロヒョウタンカスミカメが大活躍している。

安芸・嶺北地域では昨年度から、作型の違いを利用した『土着天敵リレー』に取り組んでいる。これは、安芸地域の冬春ナス圃場で定着した土着天敵を、雨よけ栽培の多い嶺北地域で夏越しさせ、秋には再び安芸へ戻すという仕組みであり、2巡目の今作は、両地域併せて10件程度の農家が参加している。

安芸市で施設ナスを栽培する岡林実さんの圃場でも、昨年11月に嶺北から“嫁入り”してきた土着天敵『クロヒョウタンカスミカメ（以下クロヒョウタン）』が定着し、コナジラミ類の防除に一役買っている。現在は1株で10頭以上のクロヒョウタンが確認できるまでになり、岡林さんは「6月には、嶺北から採取に来てもらえたら」と話している。

この『土着天敵リレー』は、単なる天敵昆虫の受け渡しだけでなく、生産者同士の情報交換の場にもなっている。今後もこの取組みを継続し、産地間交流に活かしていきたい。

18年度青年農業士総会



農業士 17 名（芸西村 7 名安芸市 5 名安田町 1 名田野町 1 名室戸市 3 名）が出席し 18 年度総会が開催された。県連の矢野会長も来賓として参加し、安芸地区の活気のある活動に感心していた。

18 年度の活動実績では芸西地区中心に出前授業、バイオマスやシステムの研修会に取り組み、また女性リーダー協議会との連携により「男女(とも)に手を携えてのつどい」開催に企画から参画し共同で行った事が報告された。19 年度活動計画では、引き続きバイオマスについて検討をおこなったり、中芸・室戸地区との交流会により、東部地区の青年農業士組織の活性化に取り組む。

「土佐鷹」ナスの評価と今後の動向



高品質・多収で産地に拡がりつつある農業技術センターの育成品種「土佐鷹」ナス、今作は中芸地区、穴内地区を中心に約 6.3ha 栽培されているが、来作は安芸地区でも導入が進み約 8.5ha になる見込み。産地における市場担当者との交流会では、量販店は 3 月以降に県産ナスから関東近在物に変えているが、春にボリュームがあり光沢のよい品種が導入されることで他県産物と同等に取り扱える可能性があるとして報告された。

3 月以降の「土佐鷹」は、従来品種に比較し光沢が良く、果皮が軟らかい、コンスタントな出荷があるなど特徴が出ている。

指導についても地区担当普及指導員、JA 営農指導員が連携を取り 18t どり、ロットの確保による市場評価の向上に向け取り組んでいる。

まずは指導者から、“経営を見る目”を養おう！



「農家に教える時の注意点は...」

4 月 20 日、農業振興センター・JA 合同の「19 年度 第 1 回経営指導者育成研修」を開催し、当センター職員 5 名・JA 職員 8 名が参加した。担い手・経営部門担当が講師となり、複式簿記の基礎やパソコン簿記の仕組みや使用方法について研修を行うほか、農家に指導する際の注意点などを説明した。

管内では青色申告会員数が年々増加している一方、昨年度からは経営不振農家に対する経営改善支援も始まっている。これらの状況を踏まえ、できるだけ多くの関係機関職員が経営管理指導を行えるよう、19 年度は年間計 8 回の研修計画を立てている。

北川村ユズ新規就農者勉強会



ユズの発芽が始まった4月18日、新しくユズづくりに取り組む3農家4名（定年帰農者1戸、野菜栽培へユズ栽培の追加2戸）が集まり勉強会を行った。一回目ということで、振興センターから栽培の基礎について話をし、質問を受けながら勉強会を行った。「経験が浅いので知らないことが多い。」「ユズ園を見て欲しい。」「農薬の散布方法を知らない。」など未知のユズ栽培に対して高い関心を持っていた。若干、年齢が高めだが、北川村ユズを支える後継者。「お互いに頑張りましょう。」で終了。

次回は、農薬散布が多くなる6月上旬。農薬散布方法を中心に勉強し、圃場巡回することとなった。

水稻「南国そだち」の試験栽培が始まる（東洋町野根地区）



田植えの状況

さる4月7日、東洋町野根地区にて「南国そだち」の田植えが初めて行われた。「南国そだち」は高知県で育成された水稻の新品種で、コシヒカリより1週間～10日程度早く収穫できる品種である。

水稻が主力である当該地区ではコシヒカリだけで10haを越える栽培面積の水稻農家も存在し、特に収穫時期の労働分散が求められている。そこで、作期分散のため、昨年より県中央地域等で栽培の始まった「南国そだち」の導入を検討し、今年は約1haで栽培されることとなった。

今後振興センターでは、生育状況を定期的に調査しながら現地検討会等を開催し、本格導入の可能性について検討していく。

JA土佐あき吉良川支所ハスイモ部会が開催される。



現地巡回で生育状況について検討中！！

4月10日、部会員5名が参加し開催された。現地圃場3ヶ所を巡回して生育状況を確認した。その後、吉良川集出荷場にあつまり、JA土佐あき職員により、2月に開催された「ハスイモ販売会議」、3月に行われた「消費地調査（東京）」の報告が行われた。内容は、「ハスイモの販売会議」では、出荷規格や包装資材、販促の取り組みや課題について、「消費地調査」では食品加工業者や南国酒家の利用状況や素材に対する考え方等についてであった。部会として、販売促進についていろいろの取り組みをおこなっており、市場からは一定の評価を得ているものの、今のところ価格に反映されていない。今後の販促について、とくに、いかに食べてもらうか等について意見交換が行われた。

センターでは「有望品目導入・定着事業」に係る栽培実証試験結果についての説明と、次年度の実証圃設置について提案し、意見交換を行って課題の共有を図った。